

令和4年度 向陽小学校 校内研修計画

1 研究主題

「深い学び」の実現をめざした授業の創造  
～国語科における対話的な学びの充実を通して～

2 主題設定の理由

近年、AIの高度化やグローバル化等が進むことにより、変化が激しく将来の予測が困難な時代に突入している。この時代を生き抜く子どもたちは、多面的なものの見方や考え方を身に付けていかなくてはならない。また、様々な状況に柔軟に対応したり、広い視野から創造的に物事を考えたりする力を育成することが必要不可欠である。新学習指導要領には、授業改善の視点として「主体的・対話的で深い学び」が明確に位置づけられている。この視点から授業を見直すことが、将来の問題解決につながる資質・能力の育成への糸口になると考える。

そこで、本校は令和2年度からの2か年、「『深い学び』の実現をめざした授業の創造～国語科における対話的な学びの充実を通して～」という研究主題のもと、研究を進めてきた。2年間の取組を通して、自己の学びを見つめ直す「振り返り」の重要性をより理解することができた。特に、振り返りの目的や内容を全教職員及び全児童で共有できたことは大きな成果である。しかし、どの学年も個人差が大きく、自分の考えをもてない、もっていても相手に伝わるように順序立てて、分かりやすく、説明することが困難な姿がある。友達との話し合いは活発にできても、学習の理解や自己の成長につながっていない場合があり、対話的な学びが充実しているとは、まだまだ言い難い。

そこで、今年度は、これまでの研究主題を継続し、授業のねらいを達成させるために有効な「対話」を活性化させること、また、系統性をもたせた「振り返り」の様式を設定することにより、授業改善をめざしたいと考える。また、個人差が大きいという本校の課題をふまえ、すべての子どもが課題解決に関わることができるような学びの場を設定し、「友達と話し合うことが好きだ」という学び合いへの肯定的な意見が多いことを生かして、学力向上に向かうための協働的な学びを充実させたい。さらに、話す力聴く力のレベルアップを図ったり、「学びに向かう集団づくり」を強化したりすることで、一人ひとりの学びの深化へとつなげていきたい。

3 めざす子どもの姿（※昨年度）

研究主題を受け、各ブロックの発達段階や子どもの実態から、めざす子ども像を設定することで研究主題の解明に迫る。

低学年 特支	○学習の仕方を身につけ、思いや考えを伝え合い、自分や友達の考えのよさに気付くことができる子 ○友達との関わりを大切にして、学んだことを表現することができる子
中学年	○学習の仕方を身につけ、自分と友だちの考えとの共通点や相違点に気付くことができる子 ○自分の学びの変容を、自分の言葉で表現することができる子
高学年	○友だちとの考えの相違点を認め合い、そのよさを自分の学びに生かすことができる子 ○自分の学びの変容を、自分の言葉で筋道立てて表現することができる子

#### 4 研究仮説

特別支援教育の視点をふまえた授業づくりを基盤に、「ひと・もの・こと」とかかわる場を意図的に設定し、対話的な学びに向かうための手立てを工夫したり、自分の学びを見つめ直す振り返りを充実させたりすることにより、子どもたち一人ひとりが自らの学びの深まりを実感することができるであろう。

※参考 特別支援教育の視点をふまえた授業づくりの心得

学 習 過 程	終末	<ul style="list-style-type: none"> <li>・めあてに連動したまとめ(キーワード、穴あき、作文)</li> <li>・価値付け</li> <li>・時間内に終了</li> <li>・振り返りの視点</li> </ul>
	展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>・視覚支援(活動の流れ、手順など)</li> <li>・パターン化</li> <li>・話し合いの目的を明確にする</li> <li>・操作活動、道具を効果的に</li> <li>・ノート指導(板書と同じ、ワークシートづくりなど)</li> <li>・価値付けを多く</li> </ul>
	導入	<ul style="list-style-type: none"> <li>・見通し(ゴールの姿)をもたせる</li> <li>・必然性あるめあての設定</li> </ul>
学級づくり		<ul style="list-style-type: none"> <li><b>支持的風土</b> (安心して発言できる雰囲気)</li> <li><b>教師の温かいまなざし</b> (自己肯定感を高める)</li> <li><b>端的な指示</b> (短く、学年相応の表現)</li> <li><b>環境整備</b> (机上・前面黒板の整理、掲示物・机いすの整とん、学習用具)</li> </ul>

(令和元年 第3回校内研修より)

#### 5 研究の視点

(1) ねらいにせまるための「対話的な学び」とは

①対話の目的

- ・交流と共有(発信、共通点、相違点、互いのよさ)
- ・協働的な活動(紙面まとめ、討論など)

②対話の対象

- ・「ひと」 子ども同士、教職員、地域の人々、先哲の考えなど多様な他者
- ・「もの」 思考ツール(図やグラフなど)、資料
- ・「こと」 実体験、既習事項

③対話の形態、種類

- ・一斉、ペア、グループ、個人
- ・話し合い、ノート交換、付箋(紙、ジャムボード)、プレゼン

④対話の効果

- ・教師による子どもの学びの変容の見取り(音声言語、文字言語)

(2) 自分の学びを見つめ直す「振り返り」とは

①振り返りの目的

- ・単元の目標や授業のねらいが達成されたかどうか評価をするため。
- ・子どもの学力を向上させるため。

②振り返りの場

- ・毎時、単元途中、単元の終末

③振り返りの3つの視点

- ・【分かる】知識、技能の習得

(〇〇が分かった。〇〇ができるようになった。今日の学習は、つまり、～だ。)

- ・【関わる】「ひと」との関り

(〇〇さんの△△がよかった。〇〇さんの考えを聞いて△△と気付いた)

- ・【つなげる】既習事項、生活や次学習へ

(もっと学習したいことは、～。前の学習と似ていて、～。〇〇で使いたい。)

6 研究の内容と方法

(1) 授業改善について

- ①各ブロックによる教材研究・授業研究（めざす子どもの姿の実現に向けて）
- ②全校授業研究（年間2回、国語科、指導者招聘あり、草案）
- ③ブロック授業研究（年間2回、国語科、指導者招聘なし、板書型指導案）
- ④互見授業（年間3回、教科指定なし、指導者招聘なし、板書型指導案）
- ④研究授業による研究協議（主題解明の手掛かりの蓄積）
- ⑤学習アンケートによる授業改善（単元末アンケート、学習アンケート）
- ⑥交換授業 ※後日提案

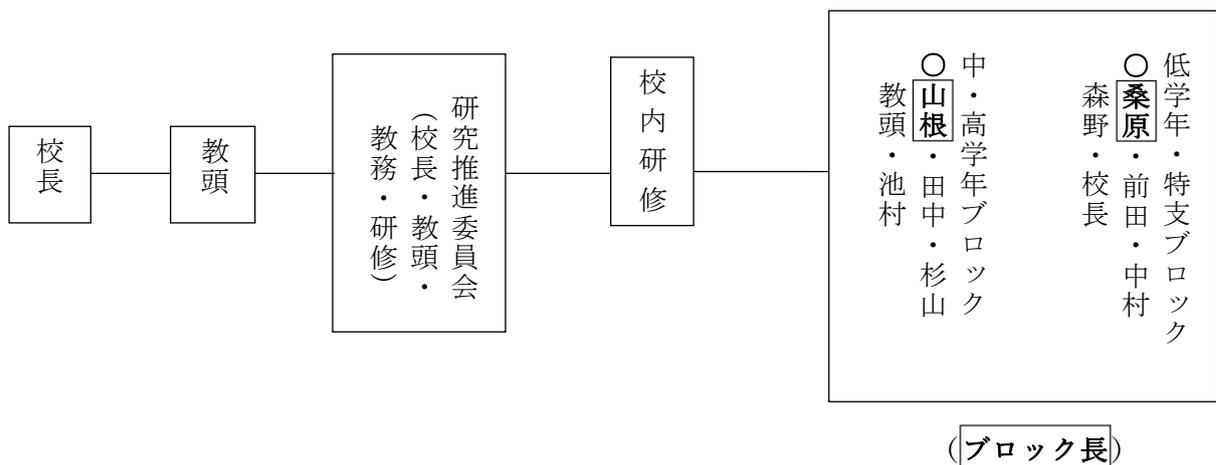
(2) その他

- ①やまぐちっ子学習プリントへの取組（朝学、家庭学習、授業）
- ②お話会、フリートークの実施
- ③読書活動の推進（国語科関連図書を並行読書）
- ④全学年で統一して行うもの
  - ア 学習用具（別紙プリント）
  - イ 「学習のやくそく」の徹底
  - ウ ノート指導（日付、単元名、めあて）※めあては青、ポイント・まとめは赤
  - エ 話す力、聴く方の指導（レベル表）
  - オ 学級会の系統 ※特別活動と相談

⑤家庭学習の定着と習慣化

- ア 「家庭学習のてびき」、各ブロックの「家庭学習のすすめ方」参照
- イ ノート展 ※後日提案

7 研究組織



## 8 研修計画

研修日	研修内容
4月19日 4月 日 4月27日	全国学力調査、確認問題採点 研究推進委員会 ・研修主題、研修内容、年間研修計画 第1回校内研修会 ・研修主題、研修内容、年間研修計画、めざす子どもの姿
5月25日	第2回校内研修会 ・指導案様式、深い学びについて、学調と確認問題の課題分析
6月 8日 6月30日	第3回校内研修会 ・指導案検討①（全体授業研究① 2年）、授業参観と研究協議の進め方 第4回校内研修会 ・全体授業研究①（2年 授業者 前田 香里）、研究協議
7月28日	第5回校内研修会 ・特別支援教育研修、複式研修①、ICT活用研修、1学期の振り返り
8月19日 8月24日	長門市学校教育研究大会 ・内容未定 第6回校内研修会 ・外国語研修、学力向上研修、研修会復伝、2学期の取組
9月14日 9月28日	第7回校内研修会 ・ブロック授業研究①（たんぽぽ2組 ）、研究協議 第8回校内研修会 ・ICT活用研修、人権教育
10月 日 10月26日	確認問題採点（chromebookでの解答のため1問程度）、分析 第9回校内研修会 ・ブロック授業研究②（3・4年 ）、研究協議
11月 2日 11月30日	第10回校内研修会 ・指導案検討②（全体授業研究② 6年） 第11回校内研修会 ・全体授業研究②（6年 授業者 田中 翔大）、研究協議
1月18日 1月25日	第12回校内研修会 ・人権教育、ICT活用研修、学力向上研修 第13回校内研修 ・複式研修②（講師招聘希望）
2月 8日	第14回校内研修会 ・今年度の研修の成果と課題、紀要作成
3月 8日	第15回校内研修会 ・来年度の研修の方向性

※研究紀要について（2学期末締め切り）

- ・紙面 15部、みすゞ学園のみ発送3部（自校作成）
- ・研修計画、研究授業の指導案、考察、成果と課題、その他資料
- ・人権資料は紀要には入れない。

※フォローアップ研修と研究授業を兼ねる。